



昭和39年6月号 No.1



昭和49年1月号 No.22



昭和53年7月号 No.37



昭和56年6月号 No.54



昭和57年4月号 No.64



昭和59年9月号 No.94



昭和62年3月号 No.124



平成元年1月号 No.146



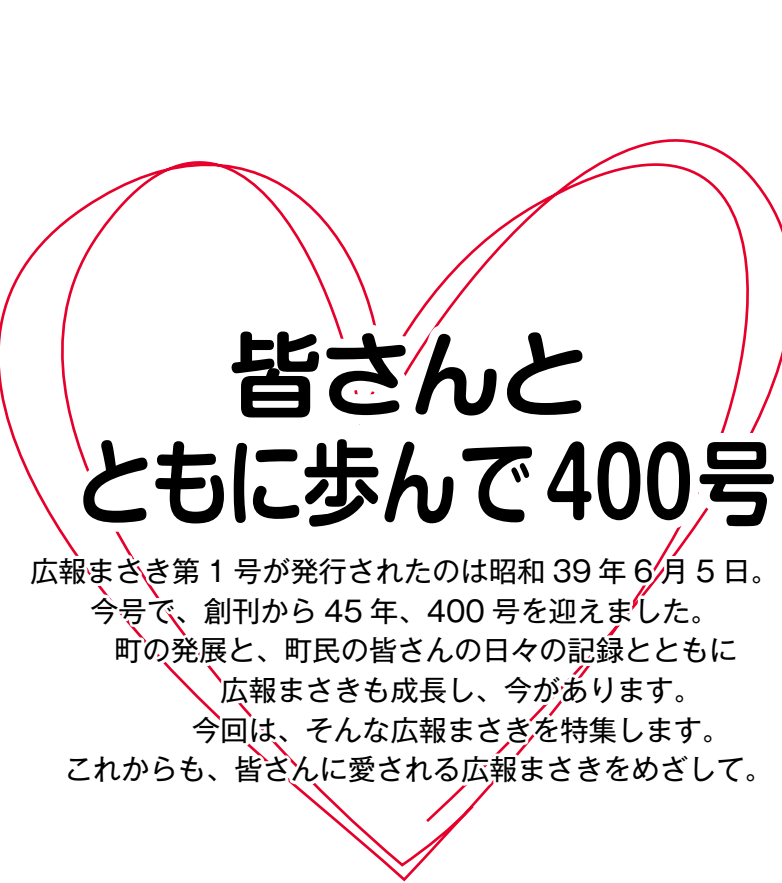
平成元年11月号 No.156



平成4年7月号 No.188



平成5年7月号 No.200



広報まさき第1号が発行されたのは昭和39年6月5日。
今号で、創刊から45年、400号を迎えました。
町の発展と、町民の皆さんの日々の記録とともに
広報まさきも成長し、今があります。
今回は、そんな広報まさきを特集します。
これからも、皆さんに愛される広報まさきをめざして。



平成7年12月号 No.229



平成8年9月号 No.238



平成10年2月号 No.255



平成10年11月号 No.264



平成11年4月号 No.269



平成11年9月号 No.274



平成12年10月号 No.287



平成13年7月号 No.296



平成13年11月号 No.300



平成14年4月号 No.305



平成16年10月号 No.335



H17年7月号 No.344



平成18年6月号 No.355



平成19年9月号 No.370



平成20年4月号 No.377



平成20年12月号 No.385



平成21年12月号 No.397

03

も っ と も っ と

知ってほしいことがある

毎月、掲載依頼が役場の中から外からもたくさん集まっています。情報があふれ、それを手にする方法や機会が増えている今、広報紙は皆さんに「何をどこまで伝えるか」が大きな悩みです。パソコンや携帯電話から、いつでもどこでも、簡単に必要な情報を手に入れることができる時代です。「子どもが生まれた。どんな手続きがいるのかな？」そう思ってパソコンで情報を検索して、届け出て一安心する。



でも、待ってください。育児相談のこと、子育て支援サークルのこと。自分が必要と思った情報のほかにも、役立つ情報はいっぱいあります。それを伝えるのが広報紙の役割だと思います。そのためには広報紙をめぐってもらわなければなりません。「いい情報見つけた」そう思ってもらえるように、ページをめぐりたくなる「広報まさき」をめざしています。

04

会 議 室 で つ く っ て る ん じ ゃ な い

現場でつくっているんだ

「取材」。今、一番こだわっているのはこの取材です。広報紙の編集は机の上でもできます。写真は誰かに撮ってもらったのもいいかもしれませんが、でも、活動を紹介するなら直接会って話を聞く、イベントを報告するなら現場の様子を肌で感じることに重要です。これからの現場に出ていきます。そしてたくさん人の声を聞き、写真を撮ります。「その瞬間を切り取る」写真は、何百字の文字よりも多くを語ることがあります。広報まさきの主役は皆さんです。もっともっと広報まさきに登場していただきます。



01

皆 さん と

よりよい関係をつくりたい



なぜ広報紙を発行しているのでしょうか？
「広報」の語源は、「パブリックリレーションズ」で、直訳すると「大衆・公衆との関係」です。行政広報の場合は、住民と行政がよりよい関係を築くことを目的にしています。
一般に「広報」と言うと、広報まさきのような広報紙を想像するのですが、行政から住民への情報を伝える「広報」だけでなく、住民の皆さんからの意志を聴く「広聴」の意味も含まれています。
まちづくりは、行政だけが考えるものではありません。住んでいるまちの課題は何か、みんなで考え、その問題に立ち向かう、そんなまちづくりを実現したいのです。そのためのかきかけが広報まさきであってほしい。広報まさきでは、町内で暮らす皆さんと、町との接点を紙面に描きたいと考えています。もっともっと松前町を好きになってもらえるように。



02

ご み 箱 直 行 で は な く

毎月読んでほしい

住民と行政がよりよい関係を築くために発行している広報は、まず、興味を持ってもらわなければなりません。
自分が読みたい本や見たい雑誌があれば、お金を払って買ってきます。「広報まさき」は、お金を払わなくても（と言っても皆さんの税金で作っているのですが）、毎月各家庭に配られます。「行政からのお知らせなんかつまらないから捨てちゃえ」なんて、紙ごみにされないように、人知れず工夫をしています。

広報まさきの表紙は、1年前から全面写真にし、インパクトを重視しています。それから、最後まで読んでもらうために、裏表紙も手を抜けません。表紙を全面写真にしたのと同時に、裏表紙では「行ってこーわい 会ってこーわい」のコーナーをスタートさせました。まちで活躍している人やグループ、まちの取り組みなどを取材し、紹介しているコーナーです。「あれ、これ近所の人や」なんて、まちに住む人のことを知ってもらえたらと思っていますし、「こないだ広報まさきに載ったねー」なんて、話のかきかけにってもらえたらいいなと考えています。

広報まさきヒストリー

これまで発行してきた広報まさきの中から、ピックアップしてご紹介します。

昭和 39 年～昭和 40 年代 (1 号～ 23 号)

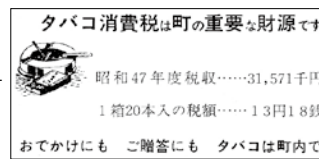
苦しい財政状況を反映した紙面

当時の広報まさきでは、ほぼ毎号、町の財政状況を公表していました。累積赤字額が昭和 42 年には 4 億 3 千万円に達し、財政再建期にあったからです。「財政再建にご協力を！」(S44.1 月号)「タバコは町内で買いましょう」(S48.11 月号)などのような記事が目立ち、町民に理解を求める様子が見えられます。

- 創刊当時は B5 判 8 ページのモノクロで、年に 2 ～ 3 回発行。昭和 44 年 1 月号からは、タブロイド版 4 ページへ。毎月 1 日発行になったのは昭和 48 年 1 月号から。



『教育の町』宣言についての記事を掲載 (S39. 創刊号)



「タバコ消費税は町の重要な財源です」(S48.11 月号)

昭和 50 年代 (24 号～ 113 号)

町の新規事業を紹介

財政再建は順調に進み、赤字は 7 年で完済 (S51.1 月号)。町の運営も落ち着き、さまざまな取り組みが行われるようになりました。皆さんの生活に直結した新しい事業の紹介記事が多く掲載されています。

- 町の事業が増えてきたことに伴い町政情報も増加。広報紙も B4 判になったり毎月発行になったり、さまざまに変化。



「塩美園が落成」(し尿処理施設) (S51.4 月号)



郷土を美しくする清掃 (S52.8 月号)

昭和 60 年代 (114 号～ 146 号)

松前町の魅力を伝える

町の歴史を紹介する「ふるさとをたずねて」、町民の声を紹介する「随想」、同和問題を考える「同和教育シリーズ」などの連載企画と合わせ、町の歴史や魅力を伝える記事が多く見られます。町の身近な情報を紹介することで、地区間の交流を活発にすることをめざしました。

- 昭和 61 年 5 月号から装いを新たに。表紙の題字「まさき」は前町長の直筆。



「表紙がカラーに」(S61.5 月号)



「ふるさとをたずねて」(S61.10 月号)

05 徹底的に 文章のダイエット



文字ばかりの紙面を見ると、読む気をなくすという人もいます。広報紙に載せる情報は、皆さんに読んでもらって、理解してもらって初めてその目的が達成されます。そのために、なるべく文字量を少なくして、写真やイラストなどを使うことで、皆さんの読む気を引き立てたいと考えています。「読む」広報紙から「見る」広報紙への移行です。

どうやって文字量を少なくするか。まわりくどい表現や、分かりにくいお役所言葉は、なるべく使わないように心がけています。そして、意味や内容量は変えずに、徹底的に無駄な言葉や表現をなくして、文章をダイエットさせています。

そして、広報まさきの紙面の文字は、その移り変わりとともに、だんだん大きくなってきました。子どもにも、おじいちゃんにもおばあちゃんにも、広報まさきを見る誰にとっても、見やすい広報紙でありたいからです。そして、それは今見る人だけでなく、ずっと先に見る人にとっても同じです。自分がおばあちゃんになって広報紙を読みかえす時も、皆さんの子どもや孫に昔の広報紙を見せてあげる時にも、見やすい広報紙でありますように。

06 皆さん ありがとうございます



こんな想いでつくっている広報まさき。時期を考え取材し、ダイエットした記事は、皆さんの手に届くまでにこんな道を歩んでいます。

- 1 広報編集委員会
担当は、読みやすい文章、見やすいレイアウトを心がけて編集していますが、担当だけでは偏ってしまうことがあります。そこで、印刷する前に編集委員会を開き、広報関係者以外にも集まってもらって、意見を出し合っています。
- 2 印刷
印刷だけは役場でできないので、業者へ委託しています。現在は、11400部を印刷しています。

- 3 配布
刷り上がった広報紙が役場に届くと、役場職員で、町内会の広報などを配っていたたく皆さんのところに届けて、各家庭への配布をお願いしています。いつもありがとうございます。
- 4 皆さんの手に届いたあとの楽しみ
広報まさきでは、毎月その号について意見をいただく、モニター制度があります。今年度は 8 人のモニターさんが協力してくれています。また、モニターさんに限らず、取材に出たときや、時には、電話やがきで意見をくださる人もいます。

皆さんのこの声は、「ダメ出し」であり、最高の「励まし」です。声があると次回に生かすことができます。皆さんの声、ぜひ聞かせてください。

松前町のこと もっと好きになってもらいたいから



創刊以来、たくさんの情報を届けてきた「広報まさき」。
これからも、いろいろな情報を皆さんに届け続けます。
それは、みんなで一緒に松前町のことを考えたいから。
そして、松前町をもっと好きになってもらいたいからです。
皆さんが松前町を好きになる手助けが、
「広報まさき」でできればいいなと考えています。

家族で読む 広報じゃないと



たけいち みちひこ
武市 通彦さん
(神崎・73 歳)

「ふるさとをたずねて」に、3 回執筆しました。身近なところから題材を探して選びましたが、原稿を書くのは正直大変でした。それでも、小中学生にもわかりやすい文章になるように努力して書きました。近所の人や、知り合いに「載ったね」と声をかけてもらったことを覚えています。

今の広報は、写真が多くなって「見せる広報」にしているんだなと感じています。これなら家族で読めます。やっぱり、家族みんなで読む広報紙でないといけないと思います。まだ字がちょっと小さい気がします。読みたいと思えるように、字や写真を大きくしてほしいですね。そして、行政からのお知らせだけでなく、地域のことなど、もっともっと身近な情報を届けてくれるとうれしいです。

「分かりやすい」 「見やすい」が 1 番



きば なおみ
季羽 奈緒美さん
(西古泉・35 歳) と娘さん

月 1 回の広報モニターアンケートに答える時は、いつも夢中です。「まちのわだい」「公民館だより」では、身近な出来事を知ることができ、「消防署だより」では防災の知識が深められます。小さい子どもがいるので「子育て支援センター」「カレンダー」も大助かりです。

11 月から全面フルカラーになりました。親しみやすい雰囲気や季節感が増し、さらに内容がよく伝わってきます。広報は色々な人が読みます。男性、女性、幅広い年代の人、松前をよく知る人もそうでない人も。だから、「見やすい」「分かりやすい」が 1 番です。字の大きさ、レイアウト、色遣いなど、モニターをしていると思い入れが強くなり、たまに辛口コメントになったり、あら探ししたり!? 感じたことを素直に書いています。これからも色々な情報がスッと入ってくるページを作ってください。そして、様々な意見を取り入れて、日々成長する「広報まさき」であり続けてください。

好きなところは 人物中心なところ



かとう もとこ
加藤 素子さん
(西高柳・81 歳)

平成 20 年の 10 月号を手にして「あら、表紙が変わった」と、興味深く 1 ページから一気に読みました。初めて「読んでみよう」と思ったんです。読んで今の町全体の様子が、言葉や写真、人物で手に取るように分かりました。そして、読んだ後すぐに役場にはがきを出しました。

私たち町民は、隅々までよく読むこと、保存して役立たせること、声に出すこと、機会をとらえて話し合うことなどで、応えなければと思いました。以来、毎月届いたら、「今月の特集はこれね」と思いながら、すぐに全ページ読んでいます。私にとって「松前町がよくなっている」のを見る 1 つの材料です。広報まさきの好きなところは、人物中心なところです。一つも読まないでそのままにしている人もいます。そんな人もぜひ読んでみてください。松前町のこと、このまちに住む人のことがよくわかりますよ。

広報まさきヒストリー

平成元年～平成 9 年 (147 号～ 253 号)

町制をわかりやすく PR

平成に入ると、町内外に広く松前町を PR し、他県との交流を深めるようになりました。町のイメージアップを図るため募集した町花やキャッチフレーズ、シンボルマークが決定。(H 2. 増刊号) 広報まさきで大きく紹介されました。また、この時期、さまざまな施設が利用開始。施設紹介や利用案内が目立ちます。

- 平成 4 年 5 月号から紙面が A 4 に。紙面も字も大きくしてより見やすい広報へ。平成 6 年 5 月号からは 2 色刷り。

これまで発行してきた広報まさきの中から、ピックアップしてご紹介します。



町花や町木、町のイメージカラーが決定。(H 2. 増刊号)



北海道松前町と交流を図り、姉妹都市提携を結びました。(H 3.1 月号)



「松前公園体育館完成 !!」
(H 8.5 月号)

平成 10 年代 (254 号～ 373 号)

さまざまな課題に取り組む 姿勢を紹介

この時期、電子自治体や平成の大合併など、さまざまな課題に取り組みました。また、「自主防災組織の結成を」(H 17.7 月号)、「まさき安心安全システムが 1 月からスタート」(H 18.1 月号)、「国民保護計画を作成しました」(H 19.8 月号)など、防災に関する記事が目立つのもこの時期の特徴です。



「県内初 戸籍事務
コンピューター化」(H 10.12 号)



「市町村合併は今…」
(H 13.6 月号)



「自主防災組織の結成を !!」
(H 17.7 月号)

平成 20 年代 (374 号～)

飛躍

平成 20 年からは「飛躍」をキーワードに、すべての環境のレベルアップを進めて一歩上を行くまちづくりを進めています。広報まさきも「読む広報紙」から「見る広報紙へ」という思いで、内容・スタイルを一新。平成 20 年 10 月号から現在のデザイン・レイアウトになりました。

- 平成 21 年 11 月号から全面フルカラーに。



「飛躍に向けて !!」
(H 20.5 月号)



リニューアル号
(H 20.10 月号)